

令和8年度 第1回 南城市地域公共交通会議資料

Nバス及びおでかけなんじいの利用状況

令和8年4月28日

南 城 市

1 令和 7 年度の利用状況のまとめ

1.1 N バス

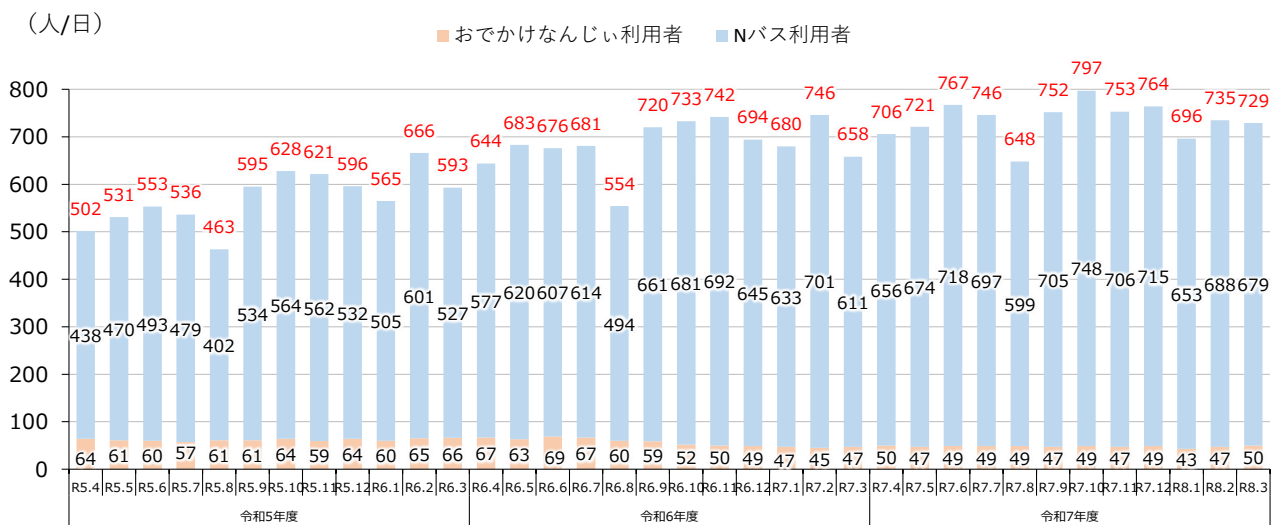
- N バスの利用者数は、令和 5 年度が約 18 万 5 千人、令和 6 年度が約 22 万 9 千人、令和 7 年度が約 24 万 8 千人と、N バス運賃支援事業（R5～R7）の影響もあり、利用者数が年々増加しています。
- 令和 7 年度における N バス運賃支援事業の利用者数は、約 5 万 7 千人で、全利用者の 23% を占めています。
- 通学での利用も多くみられ、令和 7 年度では高校生が約 4 万 8 千人、中学生が約 3 万人、小学生が約 2 万 4 千人とそれぞれ、全利用者の 19%、12%、10%を占めています。
- 1 日当たりの運行便数は平日が 69 便、土日祝日が 55 便と平日がやや多くなっています。利用者数は平日 765 人に対し、土曜日 435 人、日祝日 380 人と土日祝日の利用が平日の 5～6 割程度と少なくなっています。

1.2 おでかけなんじい

- 利用者数は、令和 5 年度が約 2 万 4 千人、令和 6 年度が約 2 万人、令和 7 年度が約 1 万 8 千人と令和 6 年 10 月からの運行時間短縮の影響もあり、利用者数が減少傾向で推移しています。
- 高齢者の利用が多く、75 歳以上の利用が約 1 万 5 千人と全体の 85%を占めています。
- 男女別の利用者数は、男性の約 5 千人に対し、女性は約 1 万 3 千人と非常に多くなっています。
- 観光客の利用は 279 人と非常に少なく、利用者全体の 2%にとどまっています。
- 年間の実利用者数は 912 人であり、そのうち上位 69 人（7.6%）で全利用者数の 50%を占めており、利用が特定の方に偏っています。
- 1 日当たりの運行便数は平日が 27 便、土日祝日が 14 便と土日祝日は平日の半分程度の運行となっています。利用者数は平日 60 人に対し、土曜日 32 人、日祝日 21 人と土日祝日の利用が平日の 3～5 割程度と少なくなっています。

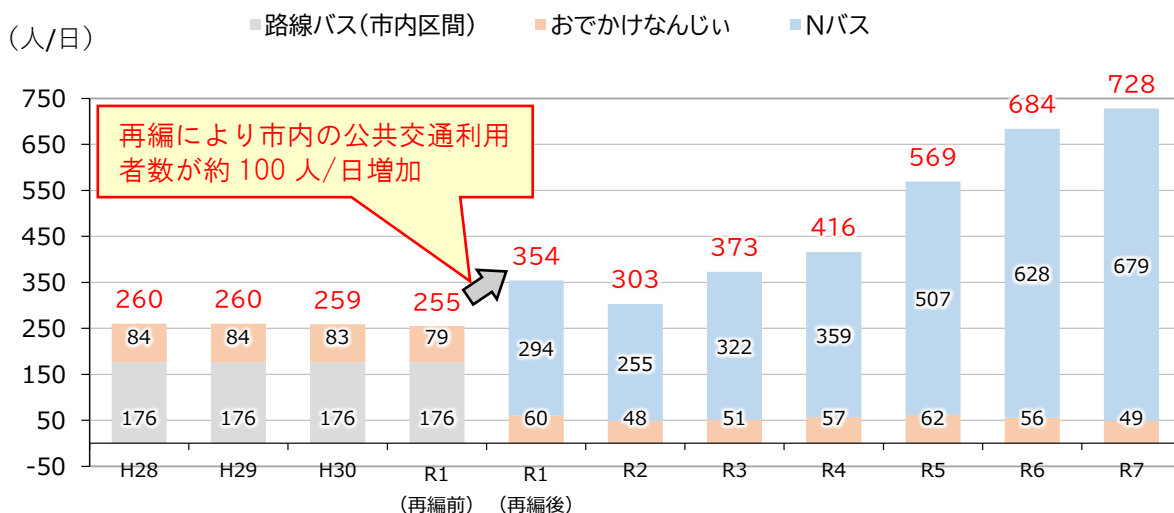
2 概況

- Nバスとおでかけなんじいをあわせた市内の公共交通利用者数は、増加傾向で推移しており、令和5年4月の502人/日から令和8年3月には659人/日と2年間で157人/日増加しています。
- その中でも、令和7年10月は過去最高の797人/日の利用がありました。
- 公共交通再編（令和元年10月）前の「路線バスの市内区間」と「おでかけなんじい」をあわせた利用者数は、約260人/日であったことから、再編から7年6ヶ月で利用者数は約730人/日へと2.8倍に増えたことになります。



※R6.9のNバス利用者数はわった～バス感謝祭 乗りほ～DAY 利用者を含む

図-1.Nバス及びおでかけなんじいの利用者数の推移



再編により市内の公共交通利用者数が約100人/日増加

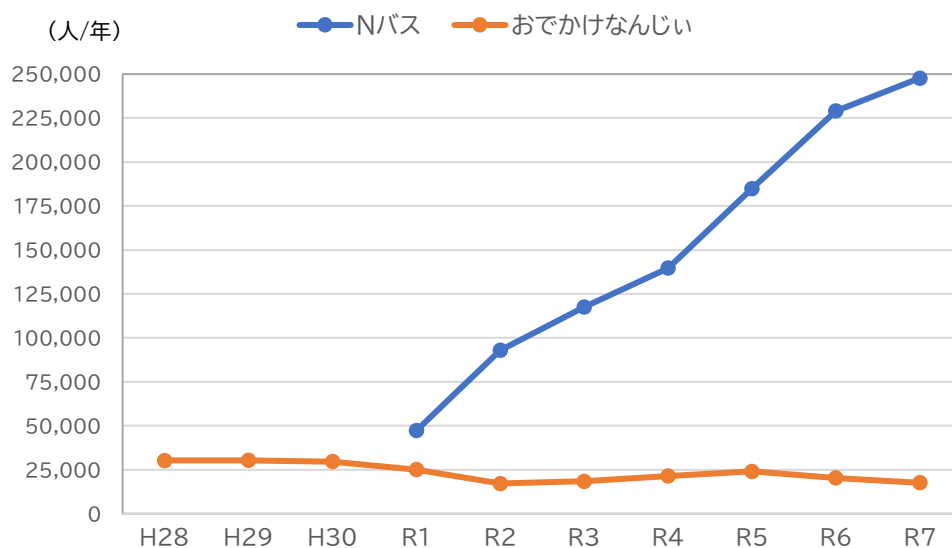
※路線バスの利用者数は、H25 沖縄県調査より、市内区間のみの利用者数を整理

※R1(再編後)以降のデータには、路線バス利用者数は含まれていない。

※R6.9のNバス利用者数はわった～バス感謝祭 乗りほ～DAY 利用者を含む

図-2.市内の公共交通利用者数の推移

- Nバスの年間利用者数は、通年で運行した令和2年度の92,939人/年から、令和7年度は247,676人/年へと約2.7倍に増加しています。
- おでけなんじいは、新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2年度は利用者数が17,169人/年と減少しましたが、令和3年度以降、徐々に利用者が増加しており、令和6年度は20,356人/年まで回復しています。
- 令和6年10月から運行時間帯が短縮された影響もあり、令和5年度よりも利用者が減少、令和7年度は17,618人/年と令和5年度に比べ約6,500人/年と大きく減少しています。



※Nバスは R1.10より運行開始

図-3.Nバスとおでけなんじいの年間利用者数の推移

表-1.Nバスとおでけなんじいの年間利用者数の推移

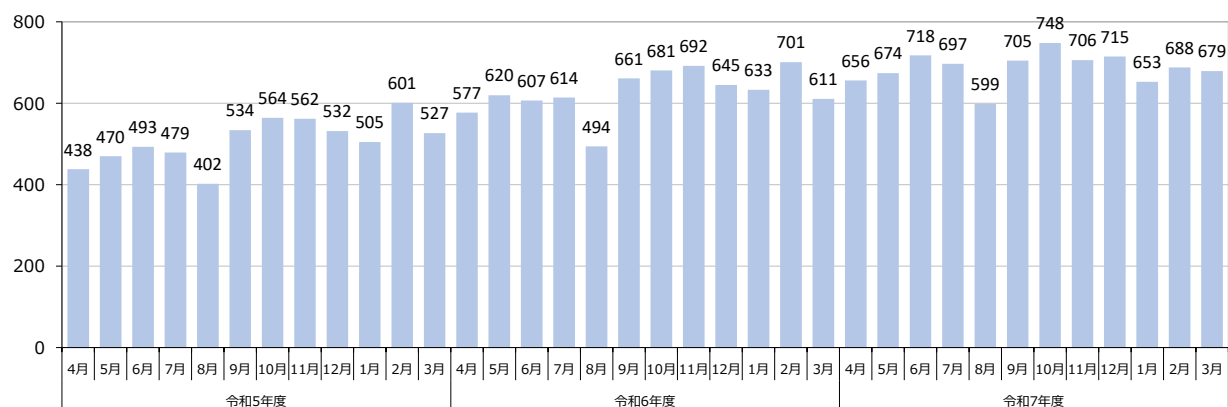
	Nバス	おでけなんじい	備考 (Nバス)	備考 (おでけなんじい)
H28		30,303		
H29		30,364		
H30		29,642		
R1	47,299	25,087	10月から半年間の運行	車両小型化
R2	92,939	17,169	新型コロナウイルスの影響	
R3	117,505	18,469		
R4	139,733	21,437		
R5	184,911	24,102		
R6	229,068	20,356		10月より運行時間短縮
R7	247,676	17,618		

3 N バスの利用状況

3.1 利用者数の推移

- 概況でも示したように、N バスの利用者数は増加傾向で推移しており、令和 5 年 4 月の 438 人/日から令和 8 年 3 月には 679 人/日へと 241 人/日、約 1.6 倍へと増加しています。
- 利用者数増加の要因としては、N バスが一定程度認知されたこと、令和 5 年 6 月より、市内在住の 65 歳以上の方または障がい者手帳をお持ちの方を対象に「N バス運賃支援事業」を開始したこと、路線バスの減便が影響していると考えられます。

(人/日)



※R6.9 の利用者数はわった～バス感謝祭 乗りほ～DAY 利用者を含む

図-4.N バス1日当たりの利用者数の推移

3.2 運賃区分別利用者数の推移

- N バスの運賃区分別の利用者数の構成比は、「一般※」が 39%と最も多く、次いで、「現金」21%、「高校生」19%、「中学生」12%、「小学生」10%の順に多くなっています。なお、「現金」での支払いについては、支払方法の都合により一般、高校生、中学生、小学生の区別が不明となっています。
- 運賃区分別の利用者数の推移をみると、一般、現金は、令和 7 年 10 月頃までは増加傾向で推移してきましたが、11 月以降は減少傾向で推移しています。

※一般：回数券、OKICA 利用で属性が把握できる高校生、中学生、小学生以外の利用者。なお、現金については高校生、中学生等の属性の判別ができないため、ひとまとめに集計している。

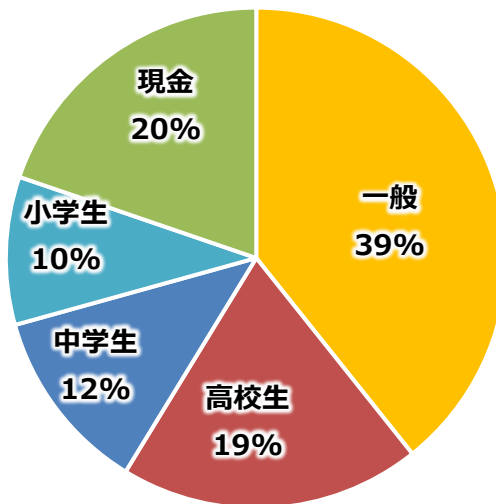
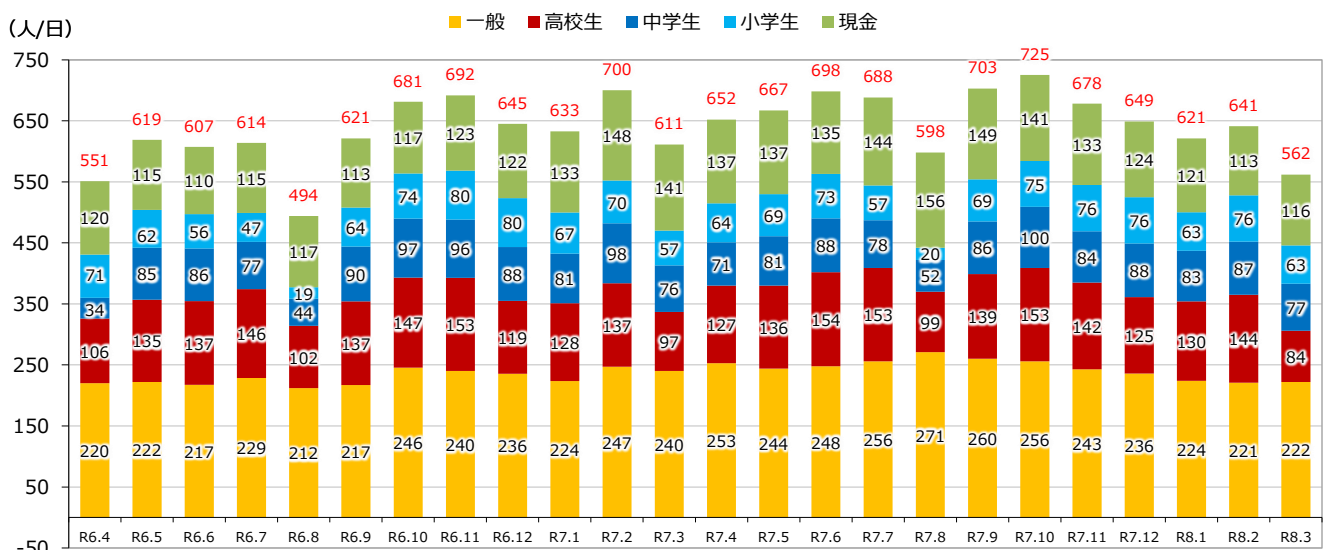


図-5.N バスの運賃区分別の利用者数の構成比(令和 7 年度)



※R6.9 の利用者数はわった～バス感謝祭 乗りほ～DAY 利用者を含まない

図-6.N バスの運賃区分別の利用者数の推移

3.3 券種別利用者数の推移

- 令和7年度のNバスの券種別の利用者数の構成比をみると、「OKICA」が47%（65歳以上18%、障がい者5%含む）と最も多く、次いで「回数券」32%、「現金」20%の順に多くなっています。
- 利用者区分別の現金以外の券種をみると、一般はOKICAの比率が83%と高くなっています。また、小学生、中学生は回数券の比率が83%、82%と高く、高校生はOKICAの比率が58%と高くなっています。

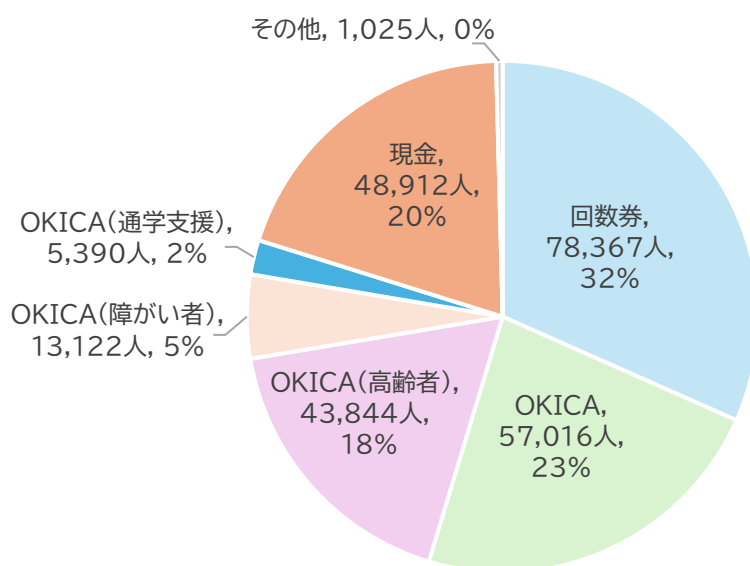


図-7.Nバスの券種別の利用者数の構成比(令和7年度)

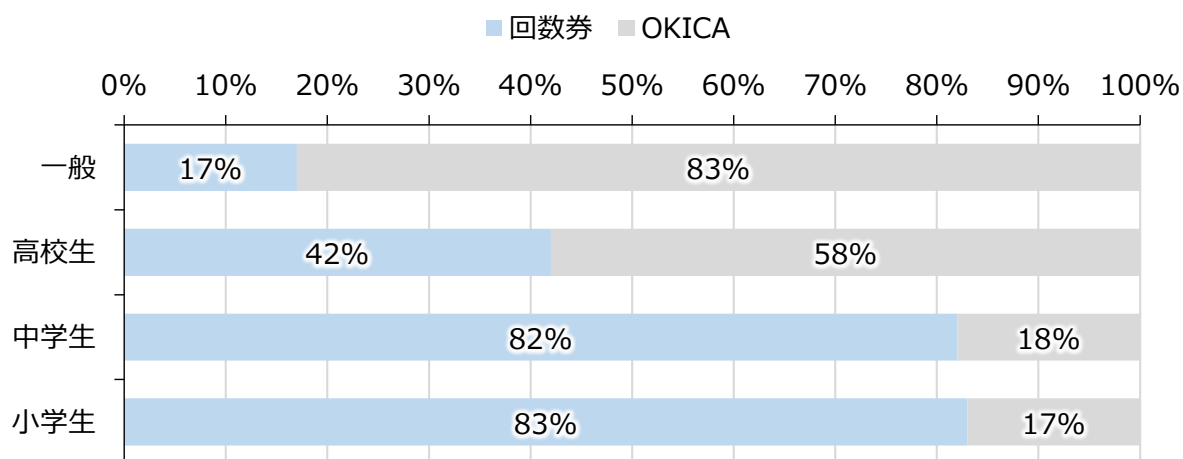


図-8.Nバスの運賃区分別券種別の構成比(令和7年度)

3.4 曜日別利用者数の推移

- 曜日別の利用者数は、平日の 765 人/日に対し、土曜日は 435 人/日、日祝日が 380 人/日とそれぞれ平日の 56%、50%と利用者数は半分程度となっています。
- 月別の利用状況をみると、平日は、学校が長期休暇となる 8 月、12 月、3 月の利用者数が少なくなりますが、過去 2 年間は増加傾向で推移しています。
- 平日に比べると、土曜日、日祝日の利用者数が少なく、土曜日が 400 人/日前後、日祝日が 350 人/日前後と平日の 5～6 割程度の利用となっています。

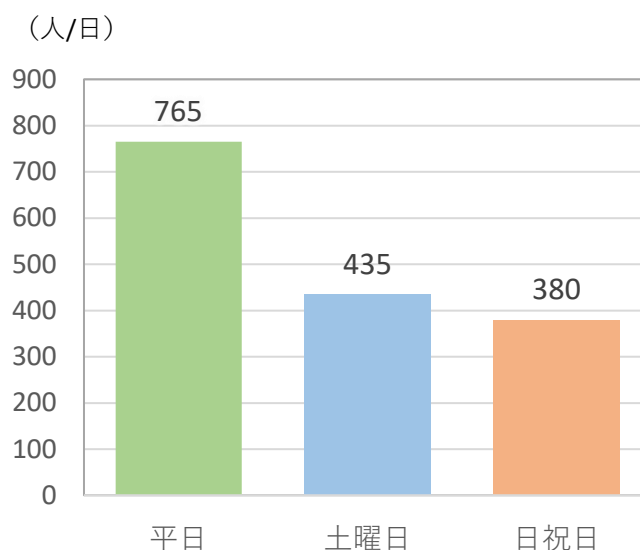
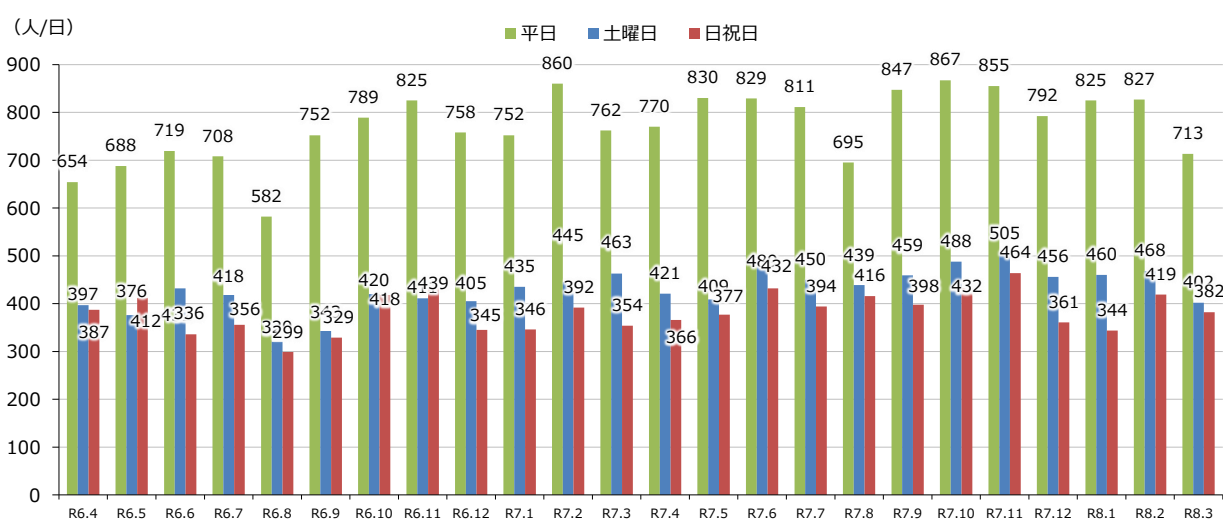


図-9.N バスの曜日別利用者数(令和 7 年度)



※R6.9 の利用者数はわった～バス感謝祭 乗りほ～DAY 利用者を含まない

図-10.曜日別利用者数の推移

4 おでかけなんじいの運行・利用状況

4.1 運行形態

- 令和 5 年度の第 5 回公共交通会議で、おでかけなんじいの運行見直しの承認を受け、令和 6 年 10 月より、運行時間の変更（平日は 9 時台～17 時台、土曜日及び日祝日は 9 時台～15 時台の運行）が行われています。
- また、令和 7 年度第 4 回公共交通会議で、おでかけなんじいの「サンエー八重瀬シティ」への乗り入れが承認され、令和 8 年 4 月 1 日より乗り入れを開始しています。

表-2「おでかけなんじい」の運行計画

項目	内容
名称	おでかけなんじい
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域及びサンエー八重瀬シティ（八重瀬町字屋宜原 99-1）
利用対象	南城市を訪れる観光客及び南城市民（年齢制限なし）※一人で乗降できる方
利用料金	一人一律、1 回 500 円（未就学児は無料） ただし、75 歳以上の市民は 1 回 200 円
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行（フルデマンド）
運行曜日	平日・土曜日・日祝日の毎日 ※12/31～1/3 は除く
運行時間帯	平日：9～18時（9時台～17時台の 1 時間おきに運行） 土曜日及び日祝日：9 時～16 時（9 時台～15 時台の 1 時間おきに運行） 平日は 3 台/時運行、土曜日・日祝日は 2 便/時運行
導入車両	5 人乗り車両を最大 3 台
利用方法	観光客は登録不要。南城市民は登録制で、利用したい便の 30 分前までに電話にて予約。ただし、9 時台は前日までの予約が必要。
運行予定者	株式会社鏡原第一交通

表-3「おでかけなんじい」の曜日別時間帯別運行台数

曜日	時期	時間帯											
		8 時	9 時	10 時	11 時	12 時	13 時	14 時	15 時	16 時	17 時	18 時	19 時
平日	～2024.9	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
	2024.10～	—	3	3	3	3	3	3	3	3	3	—	—
土曜日 日祝日	～2024.9	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	2024.10～	—	2	2	2	2	2	2	2	—	—	—	—

表-4.令和 7 年度の「おでかけなんじい」の運行・利用概況

運行便数	利用者数	1 便当たり利用者数
7,731 便	17,618 人	2.3 人/便

4.2 運行便数

- 令和 6 年 9 月までは 26～29 便/日の運行がありましたが、運行時間が短縮された令和 6 年 10 月以降は、21～22 便/日で推移しています。
- 1 日当たりの運行便数は安定して推移しています。

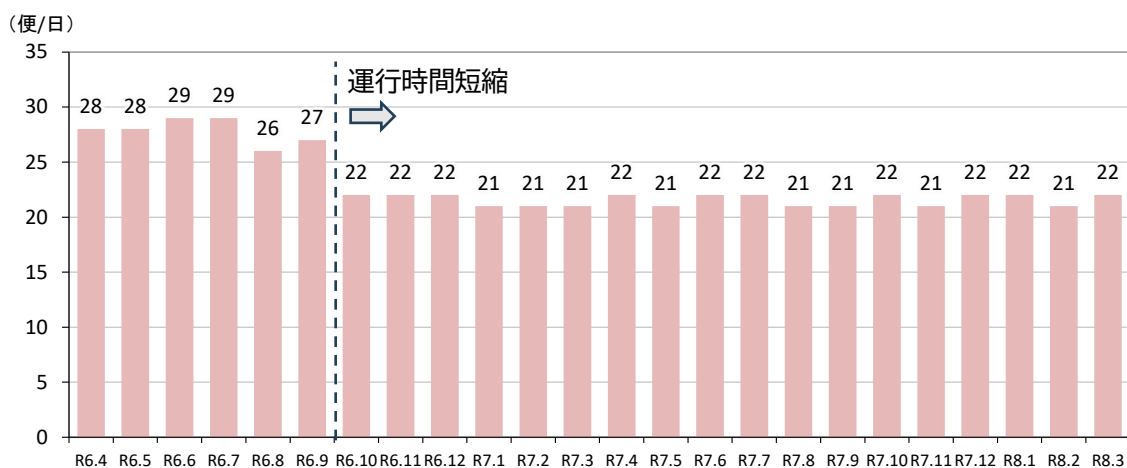


図-11.「おでけなんじい」の運行便数の推移

4.3 利用者数

- 令和 6 年 9 月までは、1 日当たりの平均利用者数が、59～69 人/日で推移していましたが、令和 6 年 10 月の運行時間の短縮以降、利用者数は 45～52 人/日で推移しています。
- 令和 6 年 10 月以降は減少傾向で推移してきましたが、令和 7 年 3 月以降は概ね横ばいで推移しており、利用者数が安定してきています。

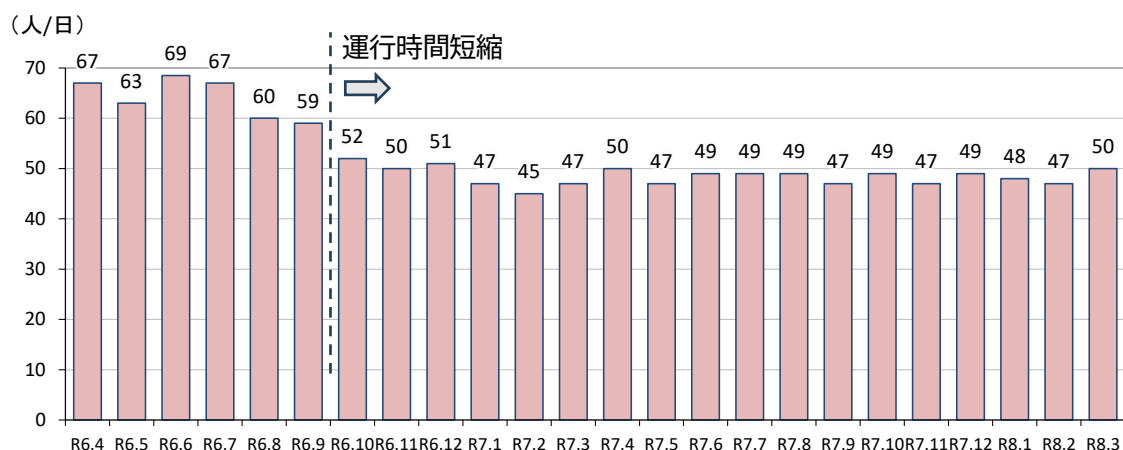


図-12.「おでけなんじい」の利用者数の推移

4.4 曜日別の利用状況

- 令和7年度における曜日別の利用状況は、平日の 59.5 人/日に対し、土曜日が 32.4 人/日と平日の約半分、日祝日が 20.7 人/日で平日の約 1/3 となっており、土日祝日の利用者数は平日に比べ少ない状況です。

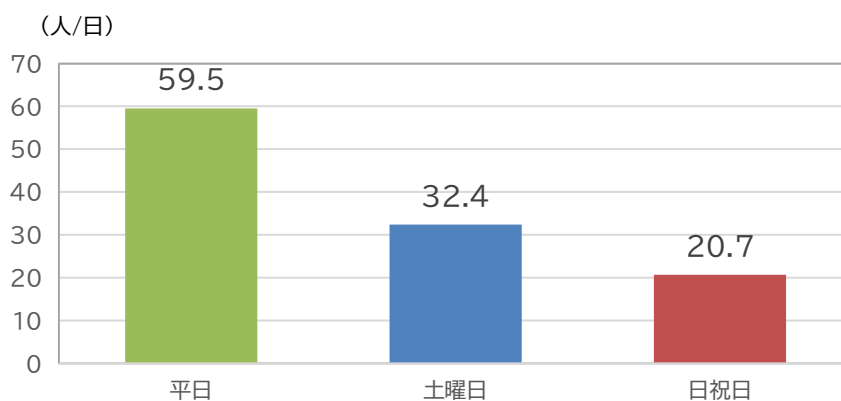


図-13.「おでかけなんじい」の曜日別の利用者数(令和7年度)

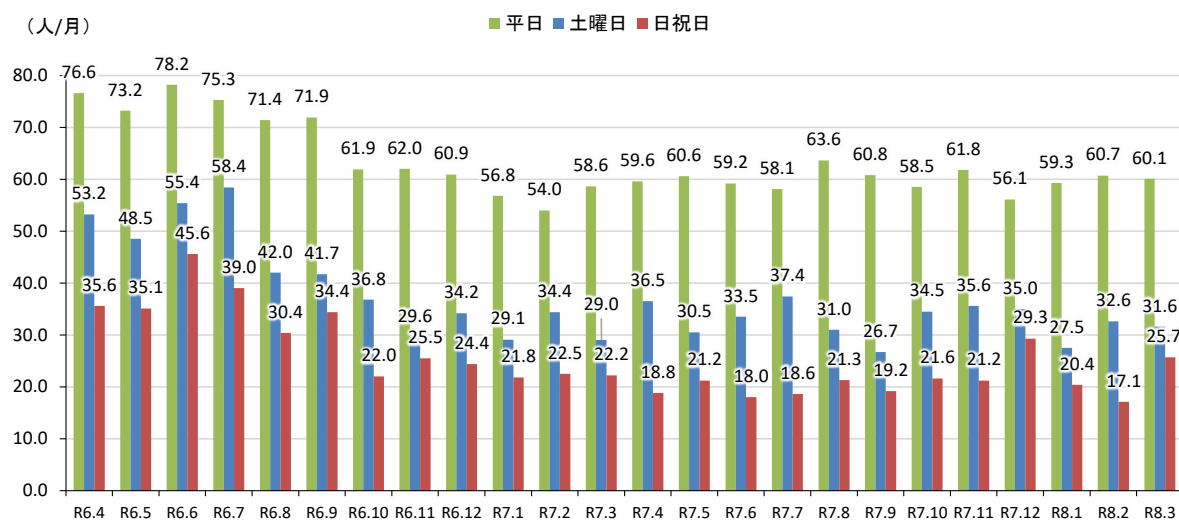


図-14.曜日別の「おでかけなんじい」の利用者数の推移

4.5 曜日別時間帯別の利用状況

- 令和7年度の曜日別時間帯別の利用状況をみると、平日の10時台（8.7人/時）の利用が多く、1便当たりも3.0人/便と多くなっています。
- その他では、平日の11時台（7.8人/時）、13時台（7.7人/時）が多く利用されています。
- 一方、日祝日は、すべての時間帯で平日、土曜日を下回っており、1便当たりの利用者は10時台を除き、2.0人/便を下回っており、乗合でなく一人利用の時間も多くなっていると思われます。
- 特に、日祝日の9時台は利用者が1.8人/日、1便当たりの利用者が1.2人/便と少なく、今後の利用状況を注視する必要があります。

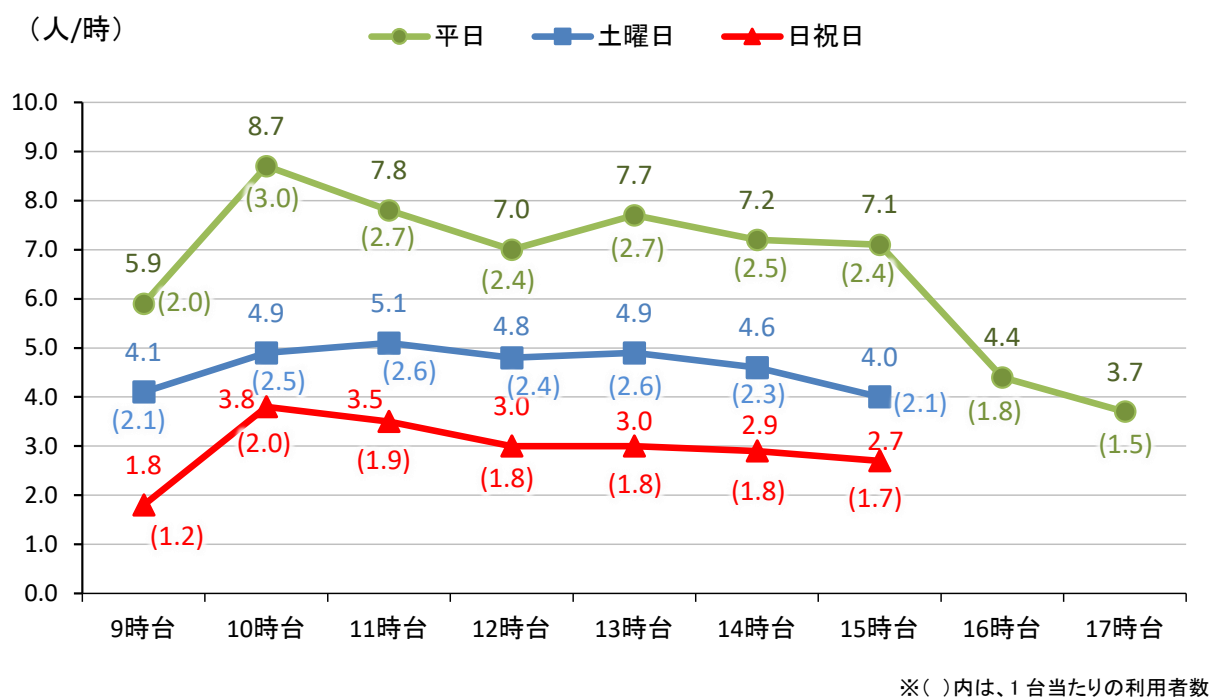


図-15.令和7年度の曜日別時間帯別の利用者数

4.6 性別の構成

●利用者の男女比は概ね 1 : 3 であり、女性の利用が多くなっています。

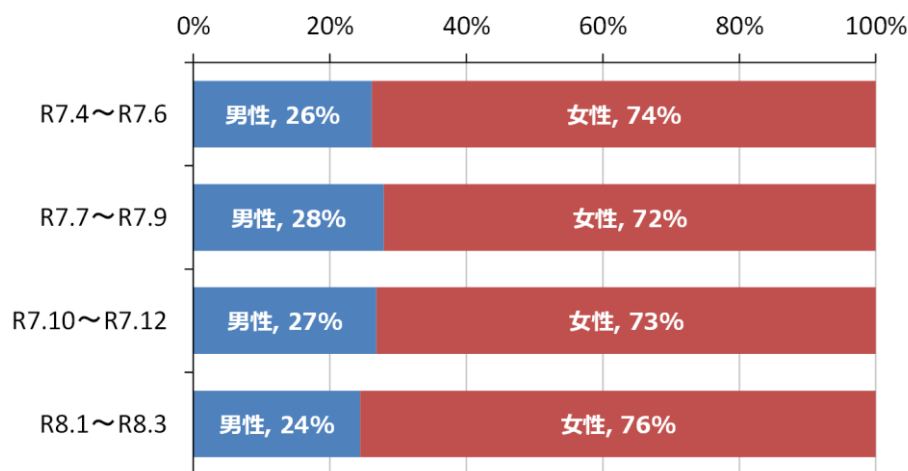


図-16.利用者の性別比の推移

4.7 年齢構成

●令和 7 年度における利用者の年齢構成は、「85 歳以上」が 37%と最も多く、次いで「80～84 歳」が 28%、「75～79 歳」が 20%と高齢者の利用が多くなっており、75 歳以上が全体の 85%を占めています。

●年齢構成の推移に大きな変化はなく、「75 歳以上」が 85%前後を占めています。

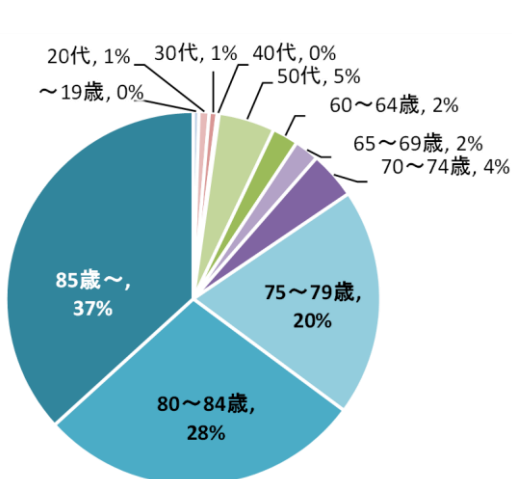


図-17.利用者の年代構成比(令和 7 年度)

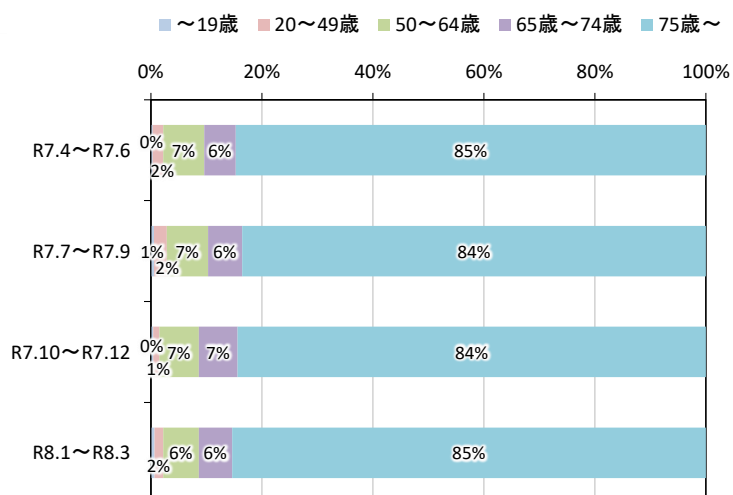


図-18.利用者の年代構成比の推移

4.8 市民と観光客

- 令和7年度における観光客の利用割合は2%にとどまっています。
- 四半期ごとの観光客の利用者数をみると年間を通して利用は少なく、特に10月～12月は0.4人/日と少なくなっています。

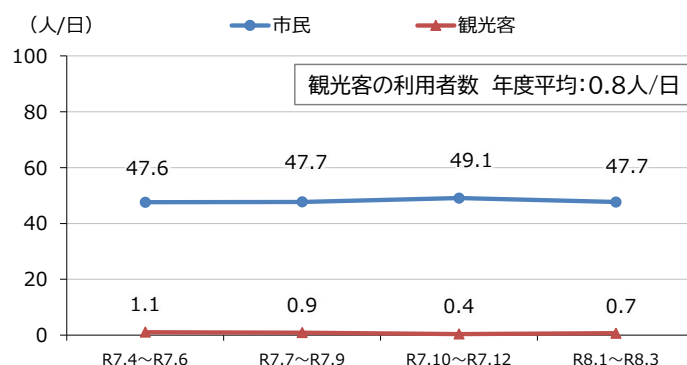
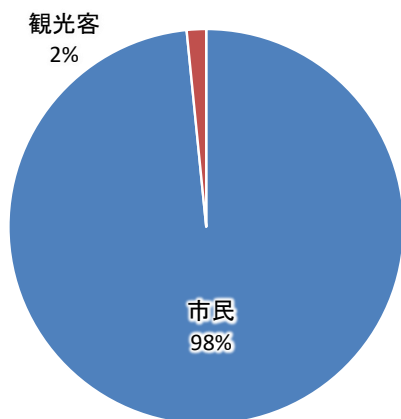


図-19.市民と観光客の構成比(令和7年度)

図-20.おでかけなんじいの市民と観光客の利用者数の推移

4.9 おでかけなんじいの実利用者

- 令和7年度における「おでかけなんじい」の実利用者数は913人であり、南城市総人口47,318人(R8.3)の1.9%に当たります。
- 年間の利用回数の上位15人(1.6%)で全利用の20%、上位69人(7.6%)で全体の50%を占めており、利用が特定の方に偏っています。

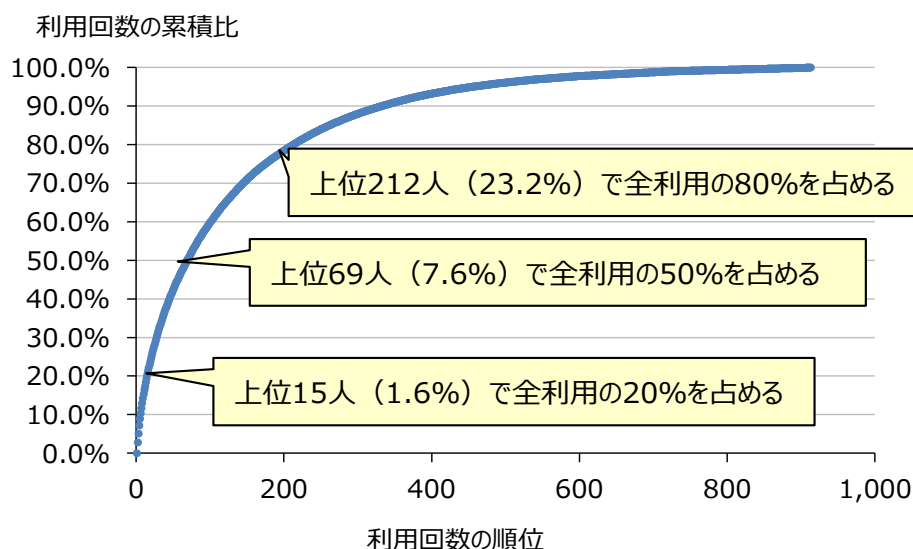


図-21.実利用者の年間利用回数の順位と累積利用回数との関係